



国宝「縄文のビーナス」・長野県

# 日本民族紹介と日英翻訳機械

という専門家向け論文です。(A4 15 枚白黒印刷)

## p1 序

日本の民族性を英語人に紹介する活動について全体的に検討し、その技術的最先端として日英翻訳機械の可能性について論じます。

## p1 ~ 4 一 言語過程説

日本国外政における日本語規範の概念体系の水準を向上させよ。

言語過程説 という新しい言語学の英訳

ソシュール派 チョムスキー派 認知言語学派 = 言語構成説 から 言語過程説 へ。形式から内容へ。

時枝誠記・三浦つとむ・宮下真二

主体的表現 (辞) と客体的表現 (詞) が本質

三浦つとむ言語学英訳 = ドイツ語化された日本語の概念体系を英語規範の概念体系に浸透させる。論理学と言語学の本質的な概念を英語規範の概念体系に浸透させる。

山田 学『学問の転換』

## p4 二 意味

言語の意味とは、その言語に関係づけられている、話したり書いたりした人による概念を中心とした認識です。

## p4 ~ 5 三 体内と世界

認識対象は体内と世界の統一です。

三浦つとむの対象論と認識論からさらに発達させた。(翻訳機械という現実論の厳しさのため)

## p5 四 言語規範形成

個人の言語規範形成は人間伝統の言語規範形成をくりかえさせると良いのではないか。

## p5 ~ 8 五 世界観対照

日英世界観対照論 「冠詞」と助詞 対話詞 と 人間関係詞 16世紀からの SVO と非 SVO の日本語 come 「~は~が」 ぼくはうなぎだ。

## p8 ~ 9 六 日本民族

6つの文化の重層 井沢元彦史観 JOMON あかでみいは 米日中各文化のバランス追求 まだ日本語表現していない日本民族の概念・表象・感覚

## p9 七 概念対照

宗教性の対照 日本語の健康平和な英語化と英語の健康平和な日本語化

## p9 ~ 10 八 日英翻訳機械

翻訳者の活動 日英翻訳機械設計者 (特殊な日英翻訳者) の活動 言語慣用語 日英意味分類記号

## p10 ~ 11 九 「自然言語処理」との対話

長尾 眞先生監修著書 LACE 研究会と山田の4年間の対話 今井幹夫氏 = 言語過程説 に深く学ぶ日本語教育研究者

## p12 ~ 14 十 さらなる前進

通過翻訳 と 理解翻訳 日英対訳集積 開発手法 日本語例・型体系 日英意味分類記号 英訳例・型集 自動照合と自動合成

語と語順 = 日本語的な認識対象 (現実のあるいは架空の・体内と世界) と認識の反省 の反映

翻訳単位という発見 代入可能性と「非線形表現」(まず全体的な英訳があり次に代入部分の英訳を埋める) 「非線形表現」と「非線形要素」の少数精鋭化

## p14 ~ 15 おわりに

三浦つとむらの深い大志 日本の国学をルーツとする 言語過程説 の立場から新しい生産の企画 遠い将来をにらむ 壮大な有益さ 本稿拙文の英訳を検討